

# EU向け植木苗輸出のための線虫防除による 生育障害対策技術の開発

## 苗木・花き部

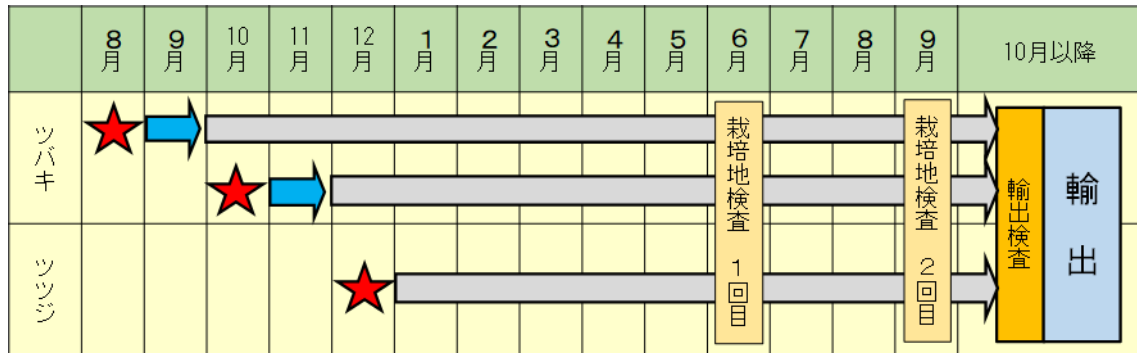
### 1 背景、目的

植木苗のEU向け輸出において、線虫防除（根洗い＋薬剤処理）による生育障害（葉の萎凋、枝枯れ、枯死）が問題となっています。そこで、高品質な植木苗を安定的に輸出するため、ツバキ、ツツジ苗を用いて、生育障害の少ない線虫防除技術を開発しました。

### 2 成果の内容、特徴

- 1) 植木苗の輸出作業スケジュールは、線虫防除を輸出前年度の夏～秋季（ツバキ苗）、冬季（ツツジ苗）に行い、その後、ピートモスを用土として鉢上げし、遮光条件下に設置します。灌水管理は、ツツジ苗では設置時から手灌水を行い、ツバキ苗では設置時から4週間後までミスト灌水を行います（図1）。
- 2) ツツジ苗では、枯死株が夏季に一部の株で見られる程度ですので、線虫防除は、生長が止まり休眠に入っている冬季に実施するのが適切です（データ略）。
- 3) ツバキ苗では、1年を通して枯死株が発生しやすいので（図2）、発生を抑制するためには、線虫防除後にミスト灌水を行うことが有効です（図3）。
- 4) ツバキ苗の線虫防除時期は、春季では新梢が枯死し、冬季では翌年の新梢伸長が不良ですので、夏～秋季が適期です（データ略）。また、ミスト灌水期間は、より短期間で生育障害を抑制できる4週間が適切です（図4）。
- 5) 実際に輸出する際は、相手国の最新の検疫条件を確認する必要があります。

### 3 主要なデータ・画像など



★: 線虫防除処理    ■: ミスト灌水+遮光    ■: 遮光

図1 ツバキ苗、ツツジ苗の輸出作業スケジュール

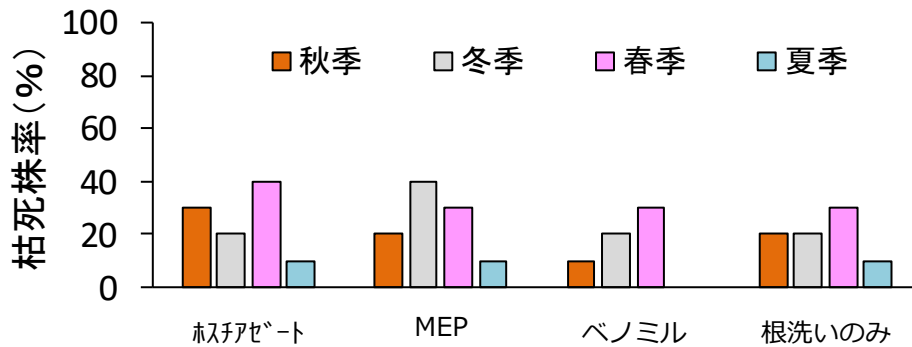


図2 時期別、薬剤別に見た線虫防除がツバキ苗の枯死株率に及ぼす影響

注) 1. 各品目 20 株/試験区。防除処理は、根洗い後に各薬剤の登録濃度、時間で根鉢浸漬処理。対照は、根洗いのみを実施。  
2. 処理後は 50%遮光条件下で手灌水管理。

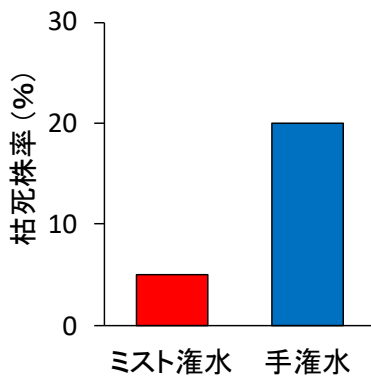


図3 ツバキ苗における線虫防除後の灌水方法が枯死株率に及ぼす影響

注) 1. 夏季処理、50%遮光条件下、20 株/試験区で実施。  
2. ミスト灌水は、6~18 時に 60 分当たり 2 分で実施。

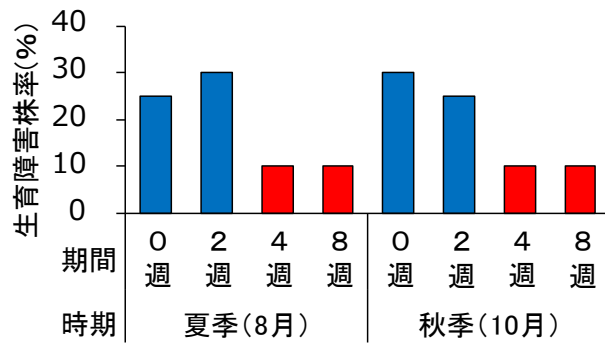


図4 ツバキ苗における線虫防除時期、ミスト灌水期間別の生育障害株率

注) 1. 20 株/試験区、50%遮光条件下で実施。  
2. ミスト灌水条件は図3と同様。